



修学旅行研修プログラム

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## ■沖縄修学旅行の魅力

世界に誇る綺麗な海に面し、観光地としてたくさんの方が訪れるようになった沖縄。

そんな沖縄には自然の豊かさ以外にも人々を魅了する独特の文化があります。しかしこの文化は過去の様々な歴史により成り立ち、今へと繋がっています。

noteでは、沖縄でしか体験できない文化や自然、そして地域との交流を通し沖縄修学旅行をより良い探究の機会にしたいと考えております。

文化 × 自然 × 人



これからの平和をつくる世代と  
沖縄での体験と対話を通して考え、[社会へ参画する力](#)を身につける。

## ■修学旅行のプログラムについて

従来の修学旅行では知識のインプットが中心でしたが、  
noteでは「[現地の体験](#)」や「[地域との交流](#)」を取り入れながら  
実感できるプログラムを提供します。

### 学校様のニーズ

### 修学旅行の方向性

1

沖縄だからこそ得られる学びを  
テーマにしたい。

沖縄らしい「[平和・基地問題](#)」や  
「[SDGs](#)」をテーマにする。

2

「現地学習」としてだけでなく、  
「地域交流」もテーマにしたい。

[沖縄の大学生](#)と一緒に  
沖縄の社会課題を考える。

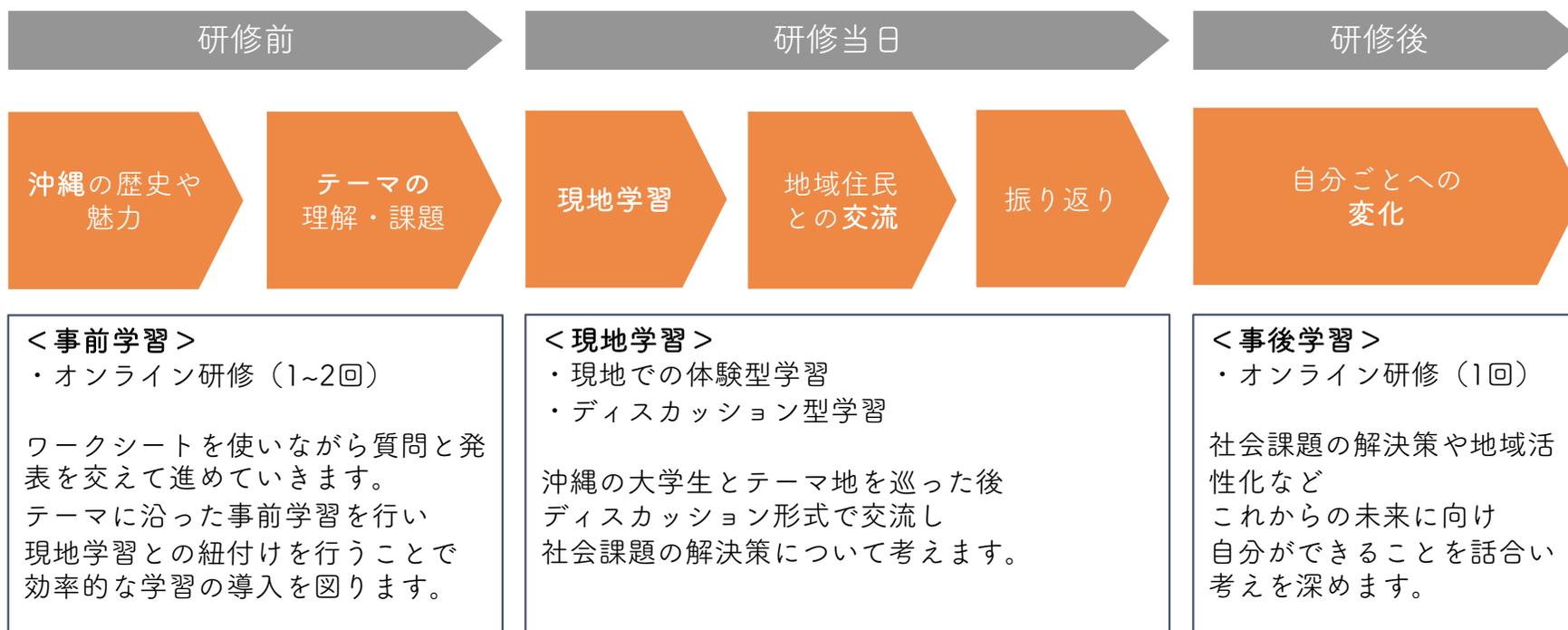
3

単発で学ぶだけでなく、  
継続的に取り組めることをしたい。

事前・事後学習を[総合の時間](#)に  
取り入れ学びの深化を図る。

## ■研修の流れ(イメージ)

事前に沖縄の社会問題の現状を「知り」、現地で自ら「体験し」  
地域の人たちとの交流を通じて「心で感じ」  
研修後も「多様な視点」を身につけるきっかけをつくります。



※各企業/学校様の状況をヒアリングしながら、研修プログラムを設計いたします。  
※研修ご担当者様に視察しに来ていただき、実際に体験してもらいながら研修内容を一緒につくり込んでいくことも可能です。  
※研修人数、期間、費用などの詳細については、ご要望に合わせて最適なプランをご提案します。

## ■ 学習のポイント

3つのポイントで生徒さまの「学び」を引き出します。  
そして、社会問題から目を背けるのではなく、交流・対話を通して「多様な価値観」があることを知ってもらうためのプログラムです。

### 1 オリジナルのツール を作成します

「平和学習」「基地問題」「SDGs」についてのプログラムはもちろん。その他ご要望に合わせた企画や、そのプログラムオリジナルのワークシートやツールを提供します。

### 2 沖縄の大学生 との交流

現地学習では生徒さまと一緒に周る大学生の進行役がつかます。

世代の近い大学生が進行サポートとして入ることで、話やすく楽しみながら学べる時間を提供します。

### 3 振り返りの時間を 必ず取っています。

振り返りの時間を設け自分自身が学んだことや気になったことを言語化してもらいます。

感じたこと、学んだことを言語化することで、学びの深化を図ります。

私たちの考える「平和で豊かな未来」は重く暗く目を背けたいものではなくこの時間を通して多様な価値観に触れ、その中で自分自身ができることを考え、繋いでいく。そんなきっかけの時間を創っています。

※大学生が進行サポートとして入りますが、彼らは各プログラムの教養はあるものそれぞれの考えを持っており、ありのままの大学生との交流を体験するプログラムです。

## ■修学旅行プログラム事例（沖縄基地問題）

### 米軍基地について学び共有する

～基地問題の本質は何か？をテーマに地元住民の様々な意見をもとに考える～

#### 事前学習

- ・オンラインでの開催
  - ・講師1~3名
- 1・基地ができるまでの経緯を沖縄戦についてを交えて学習
  - 2・基地があることでの問題点（生活・環境・外交に関わる）をグループで話し合い、全クラスへ発表
  - 3・基地があることでの良い面を考え、発表を行う
  - 4・課題を整理し、現地学習の目的を決める

#### 現地学習

- ・10~15名のグループに大学生1人が付きフィールドワークを行います。
- 1・大学生たちとアイスブレイクを行います。
  - 2・現地を見て、感じた問題点や課題についてを共有
  - 3・沖縄の大学生にとっての基地とは？
  - 4・基地問題を視覚化し論点別に分類
  - 5・課題に対してグループでの解決策を考え、発表を行います



## プログラム全体の流れ

①事前学習 ⇔ ②現地学習 ⇔ ③事後学習

所要時間  
50分  
1～2回

### ①事前学習

(オンライン or 学校)

#### 〈目的〉

テーマに沿った事前学習を行い、現地学習との紐付けを行うことで効率的な学習の導入を図ります。

#### 〈内容〉

例 《テーマ》 これからの未来の平和を作る世代と学ぶ 沖縄基地問題

- ①沖縄のイメージや楽しみにしていることを共有
- ②沖縄の過去の戦争の歴史と現在を学習
- ③基地があることでの問題や課題（生活・環境・外交に関わる問題）について考える
- ④基地があることで良い面を考える
- ⑤現地へ訪れる時までの宿題（目的）を提示



#### 事前学習用シート



+

#### 事前学習 オンライン or 学校



\*写真は全てイメージです

## プログラム全体の流れ

①事前学習 ⇔ ②現地学習 ⇔ ③事後学習

所要時間  
3～4時間

### ②現地学習

#### 〈目的〉

米軍基地を沖縄の大学生と見学し

基地問題について感じたことを大学生とディスカッション形式で話し合い、考えを深めます。

#### 〈内容〉

- ①フィールドワーク
- ②ワークシートに沿って大学生と話し合う
- ③ディスカッションとグループワーク
- ④事前学習の宿題（目的）と現地で感じたことの意見交換を行う
- ⑤課題の抽出を行い事後学習のテーマを決める



#### ワークシート



+

#### フィールドワーク～ディスカッションとグループワーク



## プログラム全体の流れ

①事前学習 ⇔ ②現地学習 ⇔ ③事後学習

所要時間  
3～4時間

### ③事後学習

#### 〈目的〉

現地で感じたことを振り返り、これからの平和のためにできることを話し合います。

#### 〈内容〉

- ①現地で決めた課題の解決策を考える
- ②解決策について発表を行う
- ③解決策について、「いまから自分ができること」を考える
- ④「いまから自分ができること」の行動を始める



#### 事後学習用シート



+

#### 事後学習 オンライン or 学校



\*写真は全てイメージです

## 平和学習・基地問題フィールドワーク/ディスカッションプログラム

沖縄の大学生と戦争跡地や基地を巡り、平和のあり方について若い世代が共に考え意見を交換する。

平和について教えてもらうのではなく

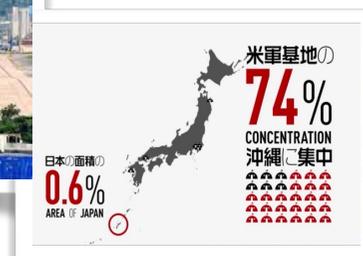
「平和とは何か」「基地問題とは何を指すのか」を学び、考えを深める対話を通して主体的に学ぶ、沖縄平和学習プログラムです。

- ・ 基地周辺住民の悩みとは
- ・ 基地と隣接した街のあり方
- ・ 基地返還の跡地利用について
- ・ 基地が与える環境への影響
- ・ 義烈空挺隊や鉄血勤皇隊について
- ・ 沖縄の戦跡から今感じること etc.

《フィールドワーク：嘉数高台公園・海軍壕・嘉手納基地・普天間基地など》

実施場所：南部・中部・北部

《ディスカッション：県内会場必須》



## SDGs Blueプログラム

### フィールドワーク/ディスカッション

未来に残したい海の豊かさについてこれからの時代を築く生徒たちが「海での体験」と「グループでの対話」を通して主体的に学ぶ学習プランです。

#### 海洋ゴミ問題について学ぶ

- ・海洋ゴミが日本を含めた世界共通の問題であることを理解する
- ・環境問題と自分たちの生活の関わりを理解し、その解決方法を考える

#### 沖縄の海について学ぶ

- ・サンゴの生態について知る
- ・沖縄の人々の生活とサンゴの関わりを知る
- ・サンゴにまつわる環境問題「海洋酸化性」について学ぶ

#### 海の生態多様性について学ぶ

- ・生物多様性と人々の暮らしのつながりについて知る
- ・生物多様性をなぜ守らなければならないのかを学ぶ

《フィールドワーク：県内ビーチでのクリーン活動・資料館》

実施場所：中部・北部



## SDGs Greenプログラム

### フィールドワーク/ディスカッション

亜熱帯性の気候と海に囲まれた島の地理的条件から貴重な生態系が残る沖縄の森  
沖縄の自然と動植物の多様性を知り、豊かな自然について考えるプログラムです。

### 沖縄の動植物について学ぶ

- ・人や外来種による脅威・被害を知る
- ・動植物や自然に触れた後、環境保全について考える



### 沖縄の自然と生活のつながりを学ぶ

- ・沖縄特有の植物の効能と生活での活用について知る。

### 沖縄の自然を取り入れたワークショップ

- ・沖縄香りで作るアロマミスト
- ・沖縄の見守り サン
- \* 別途WS料金が発生します。



《フィールドワーク：南の駅やえせ・大浦パーク・資料館》

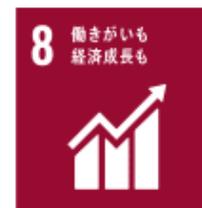
実施場所：南部・北部

## 学生チームビルディングプログラム

社会とつながり、はたらきがいのある職場（チーム）をつくるために  
沖縄ならではの自然を活かした、チームアクティビティや謎解きレースに取り組みます。  
チームで課題を乗り越えるために、様々な方法を全員で協力して考え実践します。  
その中で失敗と成功を繰り返し学びを深めます。

遊びを取り入れた体験から、学校生活をより豊かに過ごし社会で生きるためのきっかけ  
を学ぶ研修です。

実施場所：南部・中部・北部



## チームビルディングとは

一つのゴールを目指すために、メンバーが個々の能力を最大限に発揮し一丸となって進んでいく  
そうした組織づくりやチームをまとめるのに効果的な方法です。

チームビルディングに大切なことは、“実感”と“実践”です。  
チームワークやコミュニケーションを頭で理解するのではなく  
ひとりひとりが「うまくいった」「いかなかった」という体験を「**気付き**」として体感します。



「なぜうまくいったのか？」  
「なぜうまくいかなかったのか？」  
「次はこうしてみよう！」

というPDCAサイクルをしっかりと回して行くこともポイントになります。

これらの体験を重ねることで、気付きを体感し  
これからの社会とのつながりを楽しく創るためのプログラムをご用意しております。



## 遊びを通して学べる力

「遊び」の素晴らしいところは、  
スキルや能力が自発的に楽しみながら習得できるところです。  
やるべき課題の間にも遊びを取り入れることで、課題へ取り組む意欲や効率がより高まることも分かっています。

遊びのひとつひとつが人間性を築き「生きる力」が豊かな未来への原動力となります。

【知】

確かな学力

基礎的な知識  
+  
知識を活用して  
問題を解決する

【徳】

豊かな人間性

自立心  
協調性  
思いやり  
感受性  
など

【体】

健康・体力

心身ともに  
たくましく  
生きる



るて来機が器同

とが  
共受機

るて来機

## ■会社紹介

### [会社概要]

- 社名：株式会社アイティオージャパン
- 所在地：〒900-0005 那覇市天久1-26-23
- TEL：098-943-6550
- 設立：1998年11月24日
- 従業員数：21名
- 登録在沖縄大学生：約50名
- 事業内容  
修学旅行研修・企画・運営  
チームビルディング研修・企画・運営  
アロマセラピー製品の製造・輸出入及び販売  
スキー・スノーボード用品の販売及びレンタル  
レンタカー業及び総合レンタル・リース業

### [プログラム申込・受付概要]

- 受入可能人員：40名～300名  
(オンライン研修は50名以上からの実施となります)
- 受入可能日時：通年 ※時間は要相談
- 申込方法：所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、  
メールにて受付
- 申込期間：開催予定日の同日10:00より、2ヶ月前迄の受付  
※申込先行受付順になります

注) 大学生の学部・在籍校・男女比などのご要望は、基本的にお受けできませんので予めご了承ください。

注) プログラムの内容や実施場所によって料金が変わりますのでお見積もりをご確認ください。

## ■講師紹介



株式会社アイティオージャパン  
代表取締役  
伊藤 貴庸

現在、26期を迎える株式会社アイティオージャパンの代表を務めております。「常に新しい価値を創造し、社会に貢献する。」経営理念をもとに、沖縄を中心に様々な事業を展開しており、2022年前任より研修事業Noteを引継ぎました。

母の生まれ故郷である沖縄には過去の悲しい歴史があり、戦争経験者の高齢化も進んでいる中で、我々がこの「平和」と「自然の尊さ」を次世代に研修、修学旅行プログラムを通して発信し、共に考える機会を提供することが使命であると考えます。



株式会社アイティオージャパン  
修学旅行・企業研修 / 企画 / ディレクター  
菊地 賢人

千葉県で生まれ、日本各地を転々としながら育ち社会人になり初めて訪れた沖縄。その時に沖縄特有の伝統文化や自然、人とのつながりを大切に暮らした瞬間に魅了され、翌年に沖縄へ移住。

現在は3歳になる息子と妻の家族3人で暮らしています。

子が生まれたことで、「平和」と「自然の尊さ」についてより考えるきっかけとなり「豊かな未来へ」つなぐための研修を行なっています。

一人ひとりの力は小さくても、その一人ひとりが考え行動することが未来のための大きな一歩だと信じています。

## カスタムプログラムについて

各プログラムはご要望に合わせてカスタムが可能です。  
(プログラムの組合せや時間調整、実施場所など)  
ご要望に応じて改めてお見積もりを作成いたしますので、  
お気軽にお問い合わせください。

## お問い合わせ

アソビワークス  
担当 伊藤・菊地

TEL : 098-901-3670

URL : <https://note-okinawa.co.jp>  
<https://asoviva-works.com>

Mail : [contact@asoviva-works.com](mailto:contact@asoviva-works.com)



# AsovivaWorks